

私語・不規則発言統制の原理としての「フォーカス」 - 即興劇（インプロ）の理論と方法を手がかりとして -

山田雅彦（東京学芸大学）

本発表で発表者は、以下の二点を明らかにする。

- (1)授業中に児童生徒から発せられる私語や不規則発言を制止する教師の言動の中には、即興劇（インプロ）において「フォーカスに入る」と呼ばれる原理にもとづくものが含まれている。
- (2)インプロのレッスンは、「フォーカスに入る」能力を向上させる教員研修として活用可能である。

このような課題の設定は、以下に記すような現状認識と問題意識にもとづいている。

現在、学校教育の場においては、私語や不規則発言をはじめとする児童生徒の私的行動（授業と無関係な言動）によって授業の実施が困難になる現象が問題となっている。この問題の背景には、授業を実施する前提条件となる児童生徒の自己規制が、所与の前提と見なし得なくなっていることがある。この自己規制とは、「教師の判断・要求に従い、教師の指導・支援の下で学習する者」としての自己規制である。小学校の三割に「学級崩壊」が生じている学級がある、「教師に反抗すること」を「本人の自由」または「悪いことではない」と回答した高校生が70%以上に上っている、といった調査結果がこのことを端的に示している。児童生徒の多くが、教師の指導に従う義務を感じなくなっているのである。

このような状況下では、従来重んじられてきた「荒れる学級（学校）」への対応策は有効性を著しく低下させる。たとえば、児童生徒に聞いてもらえなければ「よい授業」も役に立たない。また、説得や話し合いもほとんど無力である。「教師の言うことはひとまず聞くものだよ」という説諭は、それ自体が「教師の言うこと」であり、この説諭に従うのは、すでに「教師の言うことはひとまず聞くものだ」と思っている児童生徒だけだからである。そもそも、もはや教師の指導に従う義務を感じていない児童生徒が、教師の説諭を黙って聞くかどうかさえ疑わしい。

このような状況の内にあって、「授業成立の基礎技術」を意図的に開発、蓄積しようとする試みもなされている。たとえば雑誌『授業づくりネットワーク（学事出版）』は、「授業成立の基礎技術」について継続的に特集している。そこでは、授業にエンターテインメントの要素を採り入れて児童生徒の関心を惹きつける手法が数多く報告されている。

しかし、いかにエンターテインメント性を高めても、それだけで私語を根絶することはできない。また、授業のエンターテインメント性を高めることは、児童生徒を興奮させ、不規則発言を助長する危険性もはらんでいる。授業づくりと並行して、私語・不規則発言を制止する手法を開発・蓄積することが、授業を成立させる上で重要となっている。

このような問題意識のもと、発表者は、継続的に小学校の授業を見学し、教師が児童の私的行動を統制する原理について、会話分析を用いて追究してきた。その過程で、私語や不規則発言を直接制止するのではなく、むしろ教師が積極的に児童の雑談に参加することでその雑談を終息させる場面を複数見出すことができた。しかも、この雑談への参加は、徐々に話題を変えながら児童を授業内容に誘導するようなものではない。ただ雑談に参加し、その後突然雑談から離れて授業に戻るものである。一見私語や不規則発言を助長しかねない教師のこの対応が、なぜ雑談を終息させる上で有効なのか、原理的に明らかにすることができれば、私語・不規則発言を統制する上で有効な、新たな手法を得られる可能性がある。

この統制行動を説明する原理として、「インプロ」と呼ばれる即興劇の一種で用いられている「フォーカス」という概念が有効である。

インプロとは、相手の台詞を聞かない、相手は何をしているのか見ていない、等の俳優の悪癖を矯正するレッスンとして考案された、即興劇の一種である。現在ではレッスンとしてのみならず、観客からその場でキーワードをもらって即興で演じるエンターテインメントとしても普及し始めている。相手の言動（オファー）を受け入れ、それに新たなオファーを付け加えることが基本原理とされており、この原理は「イエス・アンド」と呼ばれている。

「フォーカス」とは、インプロにおいて、複数の出演者（プレーヤー）が即興でストーリーを作っていく際に重要な概念の一つである。フォーカスは、「シーン中の焦点」「登場人物や見ている人がいちばん注目する人物・もの・空間など」と定義される。舞台上でフォーカスを一つに保つことが、即興のストーリーをわかりやすくしたり、登場人物を観客に強く印象づけたりする上で重要であるとされている。

本発表では、児童の雑談に積極的に参加する教師の言動を、フォーカスを一つに保つ手法である「フォーカスに入る」ことの一種として説明可能であることを明らかにする。そして、「フォーカスに入る」習慣を形成するためのインプロのレッスンの、教員研修としての可能性について検討する。

本発表は、科学研究費による学術研究（基盤研究C）「学級崩壊」の抑止に資する、授業過程における教師の統制行動に関する実証的研究（課題番号17530640）」の成果の一部である。